目次

ドラウナーズ【79枚】
いづる

それさえもやがては、見慣れた現実の一つと化してしまう。

本作品は、公団住宅で二人暮らしを続ける粉川しのぶという女性の一人称で記される。両親に反発して家を出ながら、しかし彼女は完全に親と縁を切ることが出来ず、周囲となじめないものを感じながら日々を過ごしている。そうした暮らしに耐えられず、時に自分を傷つけてしまう彼女は、ネットで出会った男性とリアルで会うことで状況を打開しようとする。

6

ヒット・パレード98−89【19枚】
西東ノブ

これはJポップ文学ではない。

１９９８年５月のある土曜の午後、仕事で車を走らせている私はラジオから流れる90年代のヒット曲を聴きながら思い出す——僕が過ごした日々、そして89年１月の「退屈な休日」のことを。

38

メタ探偵の憂鬱【50枚】
秋山真琴

先生と私の嵐の山荘に隠されたメタとネタと館——ミステリはここから変わる。

白い探偵の名前は夕賀恋史。嵐のなかで覚醒したとき、彼のメタ推理は失われていた。メタ探偵からただの探偵となった彼は、弟子の八雲七瀬と依頼人の夏冬和音を連れて偶然、近くにあった館を訪れる。夕賀たちが館を訪れてから数刻、事件が探偵を招くのか、探偵が事件を招くのか、早速、殺人事件が起こる。ミステリとしての完成度よりも、結末で待つ驚きと構造の複雑さを追及した現代ファンタジィが今、嵐の山荘を訪れる……!

46

スライド【35枚】
根子

ずれていく男と、忘れていく女の物語。

——私はずれていってるんです。
週一回しか営業しない飲み屋で、わたしが出会ったのは奇妙なことを話す男だった。

66

時刻表【46枚】
松本楽志

それは、ほんの短い停電のような——。

見上げた空白の時刻表に刻まれるのは、過ぎ去った時間。人々はみな一様に、虚空を見上げて立ちすくむ。駅に戻れば電車の姿はなく、ただ少女が無慈悲に呟くばかり。「電車は、もう、出てしまいました」
空白の時刻表に刻まれた未来を見つけるために、少年は再び歩き出す——。

80

百億の秋に、千億の愛を ＃2「赫い生殖」【37枚】
井原ザ★ボン

「絶海の孤島」と聞いては黙っていられない貴方は、読まない方がいいかも知れません。

『教授』の『教え』に従い、『妄想』を放出し、自らの心身を蝕む『悪意』を取り去ってしまわなければ。さあ、早く！——原因不明の胸の「苦しみ」に耐えかねた私は砂波島に渡り、『規律』に従って活動する『サークル』に身を投じる。私は『エディター』と呼ばれ、『助監督』、『管理人』の二人の『同志』とともに『クローズド・サークル・プログラム』を実践する。『妄想』の『報告』。『実験映画』の撮影。そして——。

98

輪唱ラヴソング【42枚】
曽良 圭

「俺」と「私」の偽恋愛小説。

思いきって告白したけどあっさりふられた。それはいい。予想してたから。問題なのはその理由。「今は恋愛とかそういう気分じゃないんだよね」と槇田は言った。なんだそれ。十五の女子の言う台詞じゃないだろ。もしかして、気を使ってるのか？　他に好きな人がいる、なんて正直に言ったら傷つくと思ったのか？　でも、そんなこと知ってる。今さら言われたところで傷ついたりしない。——「俺」と「私」の〈フェイク・ラヴ・ストーリー〉。

112

キセキ【43枚】
近田鳶迩

その存在こそがキセキである。

わたしの友人にはドラえもんがいる。
世の常識を遥かに超越した彼女の発明品を、試験するのがわたしの役目だ。
記憶は常に封鎖されるため、どういう発明があったかまでは憶えていないのだが——

128

落し物を届けに行こう【51枚】
鈴木知友

公園で拾った銀色のマシン。それは名探偵の落し物だった——。

うららかな春の午後、桜の花咲き乱れる公園でくつろいでたぼくたち——カズキ、ショーツー、そしてぼく、ソウタの三人が見つけたのは奇妙な銀色のマシン。
それは名探偵・空蝉速人のものだった。
そうだ！　落し物を届けに行こう！　少年たちの冒険がはじまる。

146

はじめに
5

編集後記
166

執筆者紹介
167